



『関西企業ヒストリア』 ～その強さの秘密・転換点を探る～

創業から70年以上の歴史を重ねる会員企業を取りあげ、
時代の荒波を乗り越えて、長い期間にわたって生き残り成長してきた
強さの秘密、その歴史の転換点を探ります。

第33回 創業 1947年(昭和22年)

株式会社 山善

大阪で機械工具商を開業 「山善工具製販株式会社」を創立

1943年▶ 山善は、創業者の山本猛夫が14歳で生まれ故郷の福井県を出て、大阪・立売堀の機械工具商に丁稚奉公をし、その8年後の22歳のときに独立、「大阪工具製作所」を開業したことで幕を開けました。

しかし、当時は太平洋戦争の真っ只中。まもなく猛夫にも召集令状が届き、店をたたんで沖縄戦線へと赴きました。終戦後は捕虜収容所に収容された後、1946年の暮れに帰還しました。

大空襲で戦火に見舞われた大阪の街は焼け野原となっており、街は復興どころか復旧へようやく動き始めたばかりでした。必要とされるのは機械工具よりもハンマーやスコップなど。看板は工具ですが、当面の取り扱い商品は生活復旧品と目途をつけ、1947年5月、「山善工具製販株式会社」を創立。現在の山善が産声をあげました。



山善機械器具株式会社に社名変更 大阪株式市場第二部に上場

1955年▶ “お客様の要望に応え、喜んでもらってこそ商売”という創業者の商売哲学のもと、機械工具はもちろん工業機器、土木・作業用機器まで積極的に取り扱い商品の拡大を図り、総合卸売り商の道を歩み始め、将来の大きな展望を見据えて社名を「山善機械器具株式会社」に変更しました。

10周年を迎える頃には売上規模も10億円を突破、機械工具流通業界の五指に入る会社で成長し、創業以来の夢であった上場も明確な目標となっていました。商品の拡大拡充と同時に、販売ネットワークの整備拡充、社内組織の整備、社員教育などを積極的に進め、創立15年目の1962年10月1日に念願の大阪株式市場第二部に上場、翌年9月25日に東京株式市場第二部への上場を果たしました。



1956年の春に従業員数100名を突破。
年々手狭になる社屋は増築や移転を重ねた。

住宅機器分野に進出

1965年▶ 戦後の上下水道の復興・整備事業でパイプや継ぎ手・バルブなどの水道機材やパイプレンチなどの関連工具の需要が旺盛になり、住宅関連分野に進出しましたが、商品在庫が相当数必要なことに加え、受注から納入までの手間がかかるため採算がとれず、一時撤退を余儀なくされていました。しかし1965年7月に文化的な機器を取り扱う部門として「文器部」が発足し、流し台や石油ストーブなどを中心に販売を始め、本格的に住宅機器分野へ進出。これが現在の住建事業部の始まりです。その後、家庭用ルームクーラーの出現により空調機器の本格的な販売にも乗り出しました。

アメリカに現地法人を設立

1967年▶ アメリカ・カナダの業界を視察した猛夫は、北米地域のマーケットの大きさと今後の将来性について肌で感じ取ってきていました。そこで当時海外最大のマーケットであったアメリカに販売拠点を開設することを決断し、1963年4月にシカゴ事務所を開設。1967年に現地法人となりました。山善の海外進出の第一号であり、現在の海外展開の礎にもなっています。



ここが
転換点

株式市場の第一部に上場 山善に社名変更

1970年▶ 日本の高度経済成長期、山善は「モーレッツ社長のモーレッツ会社」として注目を浴びました。1966年、機械工具専門商社として磐石な基礎を築き、その立場にふさわしい会社規模と内容にするため、1971年達成を目標に「第一部上場会社建設5カ年計画」を打ち出しました。経営体質の強化と社内インフラの整備に注力し、計画よりも1年早く、創立23年目にして東京・大阪株式市場の第一部上場を実現しました。

住宅関連部門をはじめ公害防止機器関連やメディカル関連、生活・レジャー関連商品の取り扱いウエイトが高まり、“機械と工具の山善”という固定的なイメージを打破し、幅広い機能・事業領域を持った専門商社へ発展することを目指し、社名を変更しました。



創業者をモデルにした 『どてらい男』がテレビドラマ化

1973年▶ 1972年7月に創業者・山本猛夫をモデルにした小説『どてらい男』（花登篁・著）が発刊され、人気を博しました。1973年10月には、フジテレビ・関西テレビ系列で全国放送のテレビドラマ化され、主人公の“モーやん”が意地と度胸と知恵で困難に体当たりし、商売人として少しずつ成功の階段を上っていく生き様が注目され、平均視聴率27%、最高35%余の超人気ドラマとなりました。



創業者 山本 猛夫 氏

1921（大正 10）年3月福井県生まれ。1947（昭和 22）年に株式会社山善を創業。異色経営による急成長が注目され、小説「どてらい男」のモデルに。1991 年没（享年 70 歳）。同年、正五位叙位、勲三等瑞宝章受章。

専門展示即売会 「どてらい市」を開催

1975年▶ 住宅機器専門の展示即売会「あたらしい暮らし展」を1974年7月に開催。若手社員を中心にして運営や展示場の設営、商品レイアウトなどが検討され、予想以上の成果となりました。この経験・ノウハウを蓄積し、1975年4月に東大阪市の西日本山善倉庫センターを会場として「第1回どてらい市」を開催。当時は珍しかった「見て、触って、確かめる」展示即売会で、業界でも急速に注目を集め大きな話題となりました。

営業の現場の発想から生まれた販売店・メーカー・山善「三位一体のビジネスモデル」であるどてらい市は、誕生から40年以上経った今も、全国で展開されています。



第2回 大阪どてらい市

家庭機器分野へ進出

1978年▶ 1972年に工具部門の販売ルート拡大のため、金庫、スチール棚、電動工具などの卸売販売を開始したことをきっかけに、前身の「特販係」が誕生しました。その後小売流通向け販路が軌道に乗ったことや、ホームセンター勃興期という後押しもあり、1978年に「家庭機器課」が設置され、家庭機器分野へ本格参入。現在の家庭機器事業部の始まりとなりました。1983～1984年にはメーカーと共同開発した電気カーペット、こたつ、扇風機などのオリジナル商品がホームセンター向けの主力商品に成長しました。

長期経営計画がスタート ビジュアル・アイデンティティを導入

1988年▶ コンピュータを軸にした情報化の進展は、急速な国際化を進めている中、山善はボーダレスを生き抜く企業としての体質も体力も完全とは言えず、次の時代への展望も設計も明確ではありませんでした。そこで、21世紀を見据えた新しい会社づくりの構想として、「商圈構造の再構築」と「新しい社内体制の再構築」を二本柱に、12年間にわたる「ZEUS PLAN」がスタートしました。

新しい経営に移行し事業領域を広げていく中で、若手メンバーを中心にVIに関する委員会が発足。ヒアリングや討論、社内募集などにより得たデータをもとに現在のロゴマークが決定しました。



山善のロゴマーク

「Y」の文字はたくましい樹木と美しい花を、そしてトップの3つのひし形は、製造者・販売業者・顧客を表しています。併せて、この4つが山善の概念を象徴しています。

CO₂削減 「グリーンボールプロジェクト」始動

2008年▶ 地球温暖化対策として効果が期待される太陽光発電やエコキュートなどの環境優良機器の普及・拡大とCO₂削減を同時に目指す環境ビジネスを開始しました。

一つひとつのエコ機器を購入することで得られる「小さなエコ」を、様々な企業に参画いただくことで「大きなエコロジー」に育てようという意味が込められています。

大阪本社でBCPを策定 商社初の「レジリエンス認証」取得

2015年▶ BCPとは、災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画 (Business Continuity Planning) のことです。自然災害など潜在化している脅威による損失と影響を事前に分析し、その結果に応じた対策の検討と導入を行うことで、脅威が顕在化した際に事業継続を確実にするための各種の手順や情報を文書化した具体的な行動計画を策定しました。

2016年には、内閣官房国土強靱化推進室が制定したガイドラインに基づき、商社として初めてレジリエンス認証を取得しました。

大阪・東京・名古屋など主要拠点でBCPを導入し、定期的な見直しや教育・訓練を実施し、非常時における事業継続体制の強化に努めています。

中小企業の事業承継支援をスタート

2019年▶ 事業承継問題に直面している中小企業・小規模事業者において、後継者の育成、社内体制の整備、株式・事業用資産の承継支援を開始しました。

10月に第一号案件として、搬送ラインや省力・省人化機械の設計、製造、設置工事、アフターメンテナンスを行う株式会社石原技研の株式を、特定目的会社を通じて取得。山善グループの持続的成長に向けた経営環境を整えていきます。

パーパス・ビジョンを制定

2022年▶ 山善グループの企業価値向上と持続的成長のために、社会における存在意義であるパーパスを「ともに、未来を切り拓く」、企業ビジョンを「世界のものづくりと豊かな暮らしをリードする」と制定しました。同社はものづくりを支える「生産財」と、暮らしを彩る「消費財」、2つの領域において、たくさんの期待に応え、社会に貢献してきました。これからは2つの領域の垣根を超えて、より融合することで新たな「価値」を生み出し続けていきます。

株式会社 山善

本社所在地：大阪市内西区立売堀 2-3-16 (大阪本社)

従業員数：3,157名 (連結) 資本金：7,909百万円

事業内容：専門商社 (工作機械、産業機器、機械工具、住宅設備機器、家庭機器など)